

TOPICS

花坂陶石を利用した釉薬づくり

—陶石残渣の有効利用をめざして—

九谷焼技術センター 高橋 宏 (たかはし ひろし)

thiroshi@iriii.jp

専門：陶磁器、セラミックス

一言：地域資源の活用を目指します。



花坂陶石は、小松市花坂町で採掘される貴重な地元産の九谷焼素地原料です。そのため、花坂陶石を将来にわたり長く利用し続けていくことが望まれています。そこで、九谷焼技術センターでは、花坂陶石を無駄なく利用する技術開発に取り組んでいます。

花坂陶石をスタンプミルで粉砕した後、水簸（すいひ）工程を行うことで九谷焼素地原料となる粘土分（ $5\ \mu\text{m}$ 以下の粒子）が取れます（図）。一方、 $75\ \mu\text{m}$ 以上の沈殿した粒子は水簸残渣と呼ばれて、ほとんどが廃棄処分されています。しかし、水簸残渣を分析してみるとケイ素分が豊富な珪石やカリウム分を含む長石で構成されており、釉薬原料として利用できることが分かりました。

そこで、水簸残渣にカオリンと石灰を適量加えることで、花坂陶石特有の色味（淡い黄緑色）で、上絵が剥離しにくい釉薬を作製することができました。これにより、九谷焼のさらなるブランド化に寄与できるものと考えています。

現在、花坂陶石の水簸残渣を利用した釉薬の実用化に向けて、地元製土所への技術移転を進めています。花坂陶石や釉薬にご興味のある方は、ご相談ください。

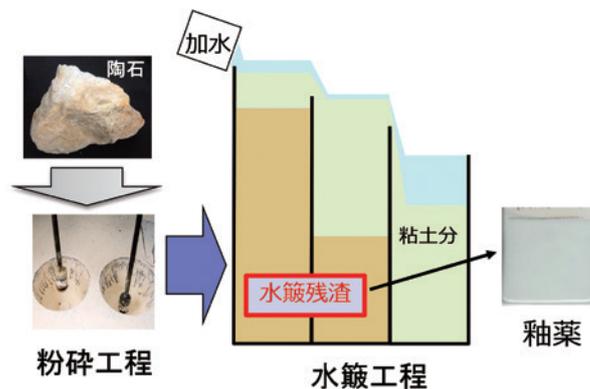


図 花坂陶石の粉砕・水簸工程と釉薬